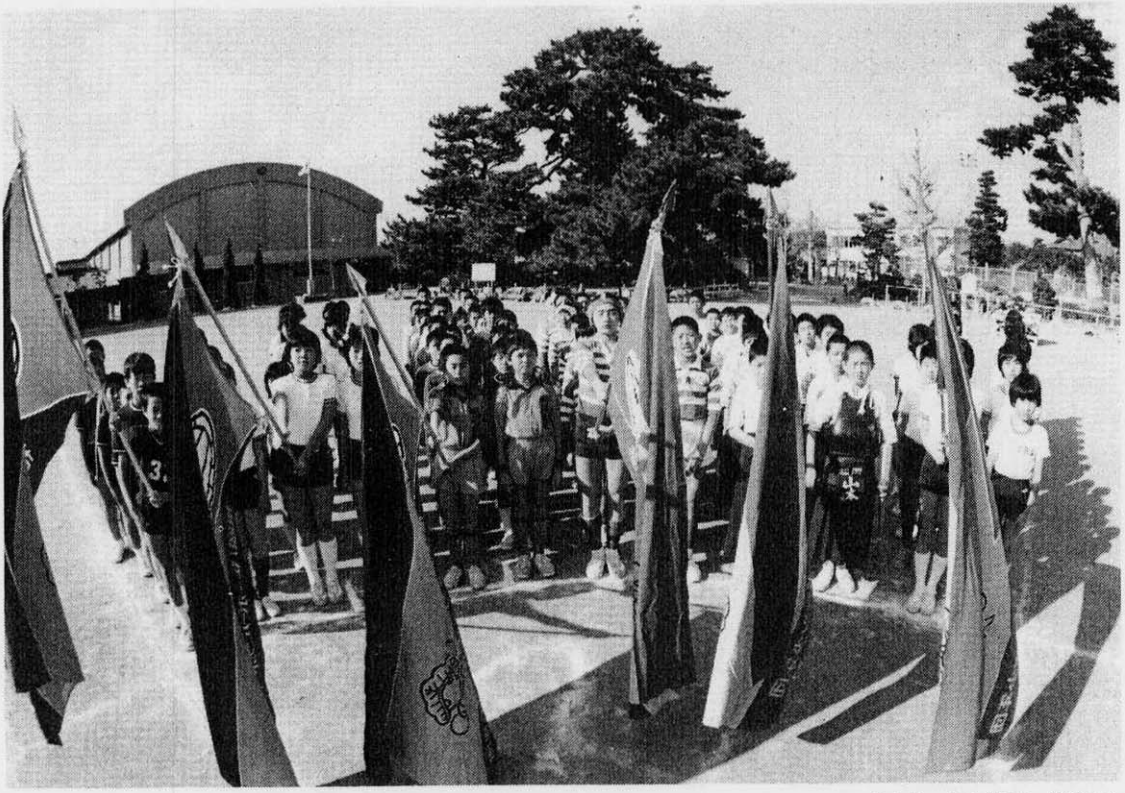
３　月　号

十余年の伝統に支えられ
健康なからだと心を養い
ルールを守り
進んで奉仕する　子ども

苦しさのなかに
限りなく伸びる力を育み
友情　協力　喜びを
世界に広げる　子ども

旗の輪の中に
すばらしい未来が見える

昭和60年３月１日
編集／発行
岡崎市教育委員会



（スポーツ少年団―福岡小）

— 教育随想 —

体育のあり方

八木菊郎

人間が身体運動をするという事実を除いては、体育は成立しない。

人間が行う身体運動は三つに分けることができる。

一、生産に関係あるもの。
二、生産に関係のないもの。
三、生活に関係のあるもの。

一は漁労、農耕、建築等の生産に関係あるもの。二は体操、スポーツ、ダンス等生産に関係のないもの。三は生活の中で体を動かすもので、走る、歩く等の活動である。

一の生産的労働は、機械の発達によって、大筋群に刺激を与えることが少なくなった。二のスポーツ選手の中には、スポーツ・マシーンと見られるような人まで現れるに至った。三の、歩く、走る等の生活運動は、交通機関の発達により、狭められてしまった。

人間は運動不足によって、種々の障害に悩まされているが、身体運動は、これらの障害を乗り越えることができるであろうか、それを究明するのが体育の研究である。

体育は科学的事実と哲学的判断から生まれるものでなければならない。

科学は分科的な学問であって、特定の現象を細かく分析して、法則を見出すことである。その方法は観察と実験である。体育では生物学・生理学・解剖学・物理学・心理学等の諸科学が重視される。

哲学は、現象そのものを全体としてとらえ、その本質を探ろうとするものである。その方法は反省と直観である。

科学は事実を、哲学は価値を追究する学問である。

体育は実践であって、単なる科学や哲学ではない。人間は、社会的、文化的な要因を持っていて、その影響を避けることはできない。また、運動は、施設・設備・用具・季節・天候等とも関連した場所で実践をする。このように、体育の実践には数多くの要因がある。これらの要因をとらえ、要因相互の有機的な関係をも考慮することが大切である。

体育の実践と体育学とのかかわりから知識体系としての理論体育学と、実践を体系づけて行おうとする実践体育学とが考えられる。実践体育学は理論体育学の応用面であり、実践を通じて、その理論を検討し、批判する面を持っている。

体育指導者の必要に応ずるものが実践体育学である。

知識体系は、それが直ちに実践に移されるものではない。その学問知識を再編成して、実践の原則として示すべきである。

例えば、「体育は心身一体である」と言う原理を打ち出した場合、それが実践の拠り所となるかというと、それは抽象的に過ぎる。実践には「精神を集中せよ」と言う方が適切である。

体育の根幹が実践であるとすれば、身体運動をする場合に、これだけの原則は適用しなければならないという原則がある。指導者は、その知識を取捨選択して指導に当たらなければならない。体育の指導者は、まず「体育はいかにあるべきか」を把握することが大切である。

（愛知体操協会副会長）

担任であることの幸福

元男川小学校長
筒木　真一

三十年近くも前に学級担任であった教え子から、「先生」といって声を掛けられ、昔話を聞かされる時には、教師をしていてよかったなあという幸福感と、その後の御無沙汰を詫びたい気持ちとでいっぱいになる。

成人をして訪れる教え子を見て、よくもこんなにすばらしい人間に育ったものだと感心をするが、彼等を見て何よりもすばらしいと思うのは人がらである。

よく小学校に在職の時、子供は担任の一挙一動を見ていて真似するものだと聞かされたものである。さらに、「いくら偉い人、身分の高い人といえども、子供にとっては、担任が一番偉いんだ。」という誇りを持てと先輩諸氏から聞かされた。

ともすると教師には卑下する風潮があるが、教師という職業に自信を持ち堂々と子どもたちに接することが大切である。

筑前琵琶師

堀田　旭甲 氏

師は明治三十五年一月一日、名古屋の神職の二男として生まれた。愛知一中のころ、築前琵琶に魅せられ、十五歳の時正式に入門した。明治大学に進んでからは本格的に修業し、在学中から人に教授するほどの腕前となり、旭甲と号した。

「私が習い始めたころは、琵琶の全盛期でしたよ。今で言えば、ピアノのお稽古と同じぐらいでしたね。小学校の同窓会で聴いたのがきっかけでした。」

戦時中は大陸慰問の演奏旅行にも出掛けたが、東京空襲により岡崎へ疎開した。戦後は岡崎を永住の地とし、昭和二十六年、筑前琵琶の旭甲会を創立した。

「日本の古典芸能の中で一番いいと思うわけは、二つあるんです。琵琶は歌でなく、語りなんです。歴史上のできごとを主題に七五調で文章ができているんですが、歴史の重みが伝わってくるんですね。

それと琵琶の音色ですね。あでやかであり、また哀調がある。まさに日本人の心のふるさとですよ。ただ悲しいかな、テンポが遅いところが多くて、今の若い人には合わないようです。」

師は床の間に置いてある筑前琵琶を取り上げ、「楠木正成」の一節を語り始めた。攻めの部分は実に力強い。本物の琵琶は一本の太い桑の木をえぐって作られている。

「琵琶の曲は全部で七十ぐらいありますが、陰気なものは一つもありません。男女関係のものもない。だから、自分の子どもに語ってやることができるんです。そのせいか、三人の子どもは、みんな社会科がよくできました。私が一番気に入っている曲は『屋島の誉れ』と『月照西郷』なんです。曲そのものがよくできているということと、勇壮なところがいいですね。」

師は筑前琵琶日本橘会の事務局長を勤めており、この一月からは全国に向けて会報を発刊した。また、昭和四十二年、琵琶の韻律と詩吟とを結びつけて天風甲心流を創設。甲堂と号して宗家となった。

「今、私のところで琵琶を習っている者は八名いますが、詩吟の方は二百名を超えます。毎日、岡崎だけでなく、名古屋・刈谷・豊田にある教室に出掛けていますよ。」

市内には十四の流派があり、二千百名の愛好者がいるという。師は、それらを総括した岡崎吟剣詩舞道協会の会長でもある。

「後継者を育て、琵琶道をいつまでも伝承していくことが、私の願いなんです。そのためにもまだまだ頑張りませんとね。」

昨年の市制記念日には、多年にわたる琵琶と吟道の普及発展の功績者として表彰された。八十四歳の師、多忙な毎日が続く。

（生年月日　明治35・1・1
住　所　岡崎市城北町十七の一）

卒業生に対して

山中小学校長
加藤　義夫

私たち教師は、卒業した教え子が成人式を迎えるまでは、関心もあり、責任もあるといわれている。

就職・高校進学・大学進学と次第に成長していく教え子の消息を気にしない教師は一人もいないであろう。

教え子が学校へ来たり、自宅へ訪問してくれることが学校や教師のバロメーターともいわれる。

教師が、就職・進学にしても事務的に接すれば、教え子も卒業後事務的に対処する。教え子が気軽に同級会・同窓会等に来てくれるようにするには、私たちが、常日ごろ本人たちに親身になって接することが大切である。ともすると、教師に対して不信感をいだく世の中ではある。

私たち教師の一番の喜びは、卒業後の教え子のことで自慢のできる時である。よく結婚式の出席を依頼される時、教師でよかったと思う。

成人式を迎えるまでは、就職・進学にしても、電話を掛けるなり、手紙を出してやるような教師でありたい。

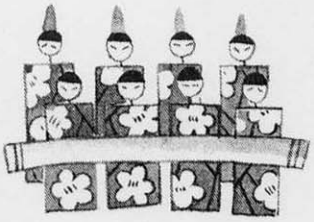
若さと健康だけが取り柄で、彼等の担任であることに喜びと生きがいを感じ、区別なくひたすら、子どもたちと取り組んだ学級担任時代こそ、教師として一番幸福であったと思う。

提言

60年代の教育

共生・共育

愛知教育大学教授
星　永俊



わが国の教育は、現在、大きな社会問題となっている。先進国はすべて文明社会である。物づくりの論理である機械的合理主義が、生産の場だけでなく、あらゆる生活の場（教育を含む）に貫徹する社会である。我々はそれを習技(technic-ways)と呼んでいる。この習技が支配的になると、物の生産と同様にあらゆる面で、「手間、暇、金を省いて、短時間で良い物を多くつくろう」とする機械的合理主義に基づく行動様式が優位を占めてくる。その上、この行動様式が何処にも適合すると考え、画一的で一様な方式となる。物づくりには、この機械的合理主義が適合するかもしれないが、文明社会では人づくりや人間関係にまで滲透するところに大きな問題が生ずる。人づくり（教育）は、物づくりと異なって、その対象は人間であるので、多様な素質、能力感情などを持っている。物づくりの原料のように、均質、等量でもなく、変型自在でもない。しかも、物のように画一化、規格化された商品につくることは、全く不可能であるのに、それに気付かないで画一的で一様な指導を試みようとする。

文明社会になると、更に高齢化社会、離婚、青少年非行で悩むという共通現象が生まれる。加えて、指導と支配の区別がわからない親や教師が多くなる。指導者は、指導する場合に被指導者をよく見て彼等から学ぶという謙虚な態度が必要になる。指導には共生、共育という論理が働かなければならない。従って、親や教師は、子どもを指導していると思っていることが、実体は支配となっている場合が多くなる。これらの現象は文明病に基因している。教育は「手間がかかり、暇も要し、金もかかってその効果がなかなか見えない」ものである。この場合の教育は、学校教育だけでなく、人間の一生涯にかかわる社会教育、家庭教育をも含んでいる。

六十年代の教育は、以上のように人づくりと物づくりの違いを理解し、習技を教育の場から除去することから出発しなければならない。第二には、人間は生涯発達するものであって、その発達には適期と適した場があるという考え方が大切である。つまり、学校教育、社会教育、家庭教育には、発達させる上で失ってはならない基本的役割をそれぞれが持っている。それをはっきりさせることである。例えば、信頼感・感情形成・礼儀作法、善悪の判断、言葉づかい、身辺自立の習慣などは家庭教育で形成し、学校に入学する前に習得させないと学校教育だけに期待しても無理なことである。第三には、三者の教育の連携のあり方を考えることである。全般的に日本の学校教育は過重負担になっている。その結果、学校教育の基本的な役割の一つである「社会を維持発展する上で必要な知識、技術を一人一人に習得させる」ことができなくなっている。また、教師は子どもを全生活場面で理解しようとする視点を持たず、学校の中だけで、それも授業の場だけで理解しようとする教師が多くなっている。これでは子どもの心の中は理解できないし、学習意欲の喚起や自己実現の場を与えることはできないと思う。教師が地域社会の中に足を運び、家庭の両親、地域社会の大人と積極的に接し、子どもの教育をめぐって彼等との連携や協力のあり方を相談するという姿勢が極めて大切になる。地域社会に根づき、開かれた学校、子ども一人一人の特性を大切にし、それを伸ばして社会的に自立させる多様なかかわり方が問われている。過日の朝日新聞で紹介された岡崎市立生平小学校の学芸会などは、地域社会に根づく学校教育のあり方として高く評価できる。これからの教育は、共生、共育を基本に据えて考えていくことである。

心に灯を

岡崎市民病院内科第三部長
山岸美知子

一、地球人の一人としての人間形成を

「30%が70%
30%が90%
70%が30%
70%が10%」

謎のようなこれらの数字の示す意味は?。世界の人口の30%=先進国の人間が世界中でできる食物の70%を、生産品の90%を買いこんでしまう。だから、残りの70%の人々は、わずか30%の食糧と10%の生産品でまかなっていかねばならない。あげくのはてに、日本人やアメリカ人が、一年間にまだ十分に食べられるか大方は手つかずのままゴミ箱に捨ててしまう食糧が70億ドル。国連食糧機関によれば、この恐るべきむだ使いの場所はまず第一に家庭、次に学校給食とレストラン。この70億ドルの食糧が生かされれば、なんと全アフリカの飢餓問題が片づくという。

（犬養道子著　『人間の大地』）

幸せなことに現在日本の小中学生は平和と豊かさの中で生れ育っています。だからこそ、たった今私たちが子供たちに食物の意味と価値を教える必要がありはしないでしょうか。紙がパルプつまり木から作られることと同時に、その木=森林は地球の大切な財産であり、しかも、現在世界中でその森林が加速度的に失われ大地が砂漠化し飢餓の原因の一つとなっていることを、そして、緑を失った大地にユーカリの木を植えようという「みどり一本」の運動のあることを子供たちと話し合ってみる時間があればよいと思います。その中で、子供たちは自分が日本人であると同時に地球人であるという世界に開かれた眼と心を持ち、その世界のどこかで同じ年ごろの子供が飢えに苦しんでいることに心を痛める優しさが育まれることでしょう。アフリカの奥地で農耕を指導する日本の青年の物語に心ひかれるかも知れません。

二、心に灯をともす教育を

「正倉院展にいきたいな。」
と小六の娘。昨年十月末のことでした。
「ええっ。」
と私。
「ねえお母さんついていってくれる。私たちで全部汽車の時間も地図も調べるから。」

昨年までは正倉院の存在すら知らなかった六年生が、自分たちで計画をたて、電車を三回も乗り換えて奈良に行きたいというのです。驚くと同時に歴史に対する〝心の灯〟を消してはならないと私は同行を決意したのでした。学級通信に担任の先生の『私と奈良』が連載されるようになったのはそれから間もなくのことでした。これだなと私は思いました。先生の奈良への熱い思いが子どもたちを古都へひきつけたのだと思います。

星の大好きな先生が天文を語る時先生の目が輝き教科書をはるかに飛び出して少し早口になり、時には脱線するかも知れません。そんな時四十人の子どもたちの何人かは（全員ではないにしても）そうだ今夜は星を眺めてみようと小学校時代の星座表を引っ張り出すことでしょう。心に灯がともったのです。その子はひとりで歩き出し、やがて走り出します。

十をもって十を教えると子どもはつまらない授業だと感じます。百をもって十を教えようとすると、授業に幅と奥行きができてリズミカルに進みます。先生が楽しんだり心ときめかせていると、子どもたちも思わずひきこまれていきます。例えば、理科の実験、子どもたちは新鮮な眼でいろいろな事をみつけ不思議に思います。当日予定している結論とは全くちがう方向に質問が集中するかも知れません。百をもっていればますます授業がおもしろく発展します。十しか持っていないと、強引に組み立て通り授業を進めようと子どもたちの科学への芽をつみ、心の灯を消してしまうことにもなります。

先生方の学問への熱い思いが、子どもたちの心のたいまつに灯をともしてくださることを六十年代に期待しております。

59年度教育研究論文入選者

応募総数　409

小学校　個人215　共同 45　　中学校　個人117　共同 32

●個人研究の部

最優秀賞

氏名	学校名	教科・領域	研究主題
神尾昌彦	広幡小	社会	観察力を育て社会認識を深める授業
稲吉治	甲山中	技術・家庭	主体的な学習をめざして

優秀賞

加藤由美子	連尺小	国語	より豊かに読みとるために
野勢裕子	福岡小	〃	生活をみつめ、高めるために
倉橋正博	常磐東小	〃	事象を鋭くみつめ、情感豊かな子を育てる作文指導
山下登	矢作東小	〃	日記から作文の試み
嘉森環	城南小	〃	一年生の読解指導
福応謙一	梅園小	社会	子どもの個性的成長をはかる社会科の授業
山本頼永	緑丘小	〃	地域素材を生かした社会科学習
榊原ひとみ	矢作南小	〃	子どものつぶやき、感声を大切にした社会科学習
中川朗子	梅園小	算数	やる気を起こさせる授業をめざして
佐野恵広	広幡小	〃	数理を粘り強く追究する子を育てる指導
小倉敏幸	梅園小	理科	問題意識の連続する理科学習
板倉敏之	福岡小	〃	探究する過程を大切にする理科指導
藤野美鈴	常磐南小	理科	自然認識を深める理科学習
神尾まゆみ	広幡小	音楽	手づくり楽器をとり入れた音楽学習
内田ひろみ	常磐小	図工	一人ひとりを生かしたイメージづくりの過程
石川春次	矢作南小	体育	力を出しきって表現運動に取り組む子の育成
飯尾ときゑ	美合小	道徳	生活の意欲化をはかる道徳指導
加納隆	竜美丘小	特活	確かな自然認識を育てる野外学習
岡田要	城南小	〃	「応援票」を活用した学級づくり
糟谷京子	福岡小	特殊	自閉児の感情表現をめざして
桑木富士子	大樹寺小	視聴覚	自作視聴覚教材を生かし学ぶ意欲を育てる社会科学習
柴田秀夫	常磐小	全般	確かな学習と評価を求めて
田境行孝	福岡中	国語	自ら学ぶ生徒の育成
大野清子	岩津中	〃	豊かな読みを育てる指導
近藤嗣郎	六ツ美中	〃	形成的評価を取り入れた国語の授業
高木和広	美川中	社会	見方・考え方の変容をはかるテレビの活用
高須亮平	常磐中	数学	操作活動による数学学習
水野昌孝	矢作北中	〃	確かな学力を育てる数学指導
内田義和	甲山中	理科	自然を探究する能力・態度を身につけた生徒の育成のための理科学習指導
畔柳とも子	城北中	美術	扱いやすい素材を使ったお面づくり
伊藤友隆	甲山中	体育	生徒の発想を生かす体育学習
加藤忠彦	美川中	英語	「聞く・話す」能力を高める効率の良い指導
千種英夫	竜海中	特活	「80mの龍ができた！」
山田一夫	新香山中	〃	中学生との初歩記

佳作

梅村京子	美合小	柴田輝夫	広幡小
小島嘉代	羽根小	有澤由香理	竜美丘小
神尾房江	竜谷小	尾崎貴美子	生平小
松井伸市	常磐小	河辺和子	恵田小
石川紗都江	矢作東小	荻野順子	奥殿小
奥田恵子	矢作南小	高橋純子	大樹寺小
本間茂夫	六中部小	三浦裕昌	小豆坂小
鈴木金利	梅園小	瀬戸智津子	福岡小
佐々木公磨	〃	松原晄三	生平小
小栗正貴	藤川小	篠田守代	岡崎小
鈴木武	細川小	太田純子	竜海中
清水真奈美	細川小	大久保幾三	東海中
山本利春	緑丘小	岡田豊	河合中
犬塚尊夫	井田小	河合好文	岩津中
加藤政幸	福岡小	高橋鏡二	〃
内田真奈美	常磐小	鶴田紀美子	矢作北中
橋本ゆかり	細川小	神尾光伸	甲山中
牧喜久雄	矢作東小	二瓶千秋	東海中
都築美名子	矢作西小	田村康則	六ツ美中
平岩昭	竜美丘小	川瀬哲夫	美川中
山本信幸	広幡小	菅沼国雄	南中
太田末也	〃	加藤恵子	岩津中
平岩浩文	〃	三浦武	新香山中
矢田敏行	藤川小	鴨下智幸	葵中
大山悦子	大樹寺小	斉藤敏子	福岡中
村上芳己	井田小	朝雄伸子	城北中
白井紘子	小豆坂小	犬塚一男	矢作北中
香村敏之	岡崎小	野村広治	南中
菅沼和子	細川小	篠田英昭	岩津中
鈴木明	梅園小	大西和夫	甲山中
山本若子	城南小	山本知子	南中
浦野公一	〃	原田平	六ツ美中
江崎智枝	美合小	尾崎美知子	矢作中
神尾美佐代	六名小	大高久美	矢作北中

●共同研究の部

最優秀賞

氏名	学校名	教科・領域	研究主題
体育部	愛宕小	体育	生き生きととり組む体力づくり
美術部	葵中	美術	美術教育における「やる気になる授業のあり方」

優秀賞

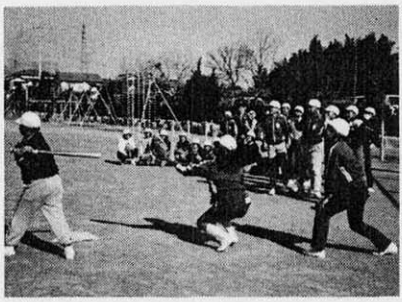
現職教育部	矢作東小	国語	確かで豊かな表現力を伸ばす作文指導
2年部会	細川小	社会	「パン作り」の体験を通して、豊かな見方・考え方を生み出す社会科学習
算数部	美合小	算数	意欲を高め理解を深める算数の指導を目ざして
現職教育部	恵田小	特活	子どもひとりひとりが生きる特別活動
特殊教育部	緑丘小	特殊	自然の中での教育の展開
数学部	葵中	数学	自ら発見し、自ら学ぶ態度ややる気を育てる学習
音楽部	六ツ美中	音楽	わかる、できる、そして感動へと深まる音楽学習
保健体育部	〃	体育	自らの力で評価できる生徒の育成

佳作

2年部会	山中小	現職教育部	美合小
5年部会	〃	数学部	南中
4年部会	細川小	2年理科部	葵中
5年部会	〃	理科部	福岡中
算数研究部	男川小	音楽部	矢作北中
現職教育部会	藤川小	英語部	六ツ美中
体育部	男川小	研究推進委員会	東海中
家庭科部	大樹寺小		

自らの企画

岡崎小　天野　典代



「ツーアウト！」
「あとひとつ！　あとひとつ。」
「たかし、やっちゃえよ。」
「がんばって。がんばって。」

これは、先日、学級で行ったソフトボール大会の一コマである。子どもたち全員が、ひとつのボールに集中。こんなに真剣になってやっている姿を見て、子どもたちは、この一年間にずいぶん成長したなあと感じた。

四月の初め、初めて高学年、五年生を担任した私。組変えをしたばかりの四十人。お互いに戸惑いながらのスタートだった。学級会で何かやろうといっても、いっこうに話は進まない。どの子も自分のやりたいことを勝手勝手に言っているだけ。私の方もこれに耐えられず、

「今回は、これをこうやって、こうしよう。」

という具合におしつけていた。だから、子どもたちも楽しそうな顔をしなかった。これでは、高学年らしくないし、よくないなと思っていたが、どう指導してよいかよくわからなかった。

しかし、こんなまとまりのない私の組も、三学期のある日、

「先生、何かやろまい。」

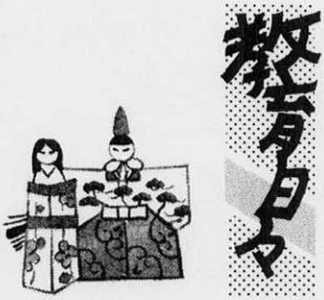
と言ってくる子どもが現れた。

「それじゃあ、今回は、みんなに全部任せるから、みんなが楽しくやれるように、何か計画しなよ。」

と答えた。どうせ、またじょうずになんか決められないだろう。でも、ほかっておこうと思った。

しかし、今回は、私の予想に反して、子どもたちはとても意欲的だった。ソフトボール大会をやることになった。女子も反対しなかった。それは、男子が女子にはルールを甘くするといったからだ。チーム分けでも、男女別々のグループを作るかと思ったが、女子は知らない子もいるから、男女混合にして、教え合うというのだ。いろいろな点で今回は他人のことも考えた話し合いができた。その上、試合前の土・日曜日には、チームごとに広場で練習をしたという。

喜々として、ソフトボールをする子どもたちを見ながら、彼らの一年間の成長の大きさに驚くとともに、教師として、その成長にどれほどの援助ができたかを反省させられた。



突然の登校拒否

甲山中　神尾　光伸

文化祭が間近に迫った十一月中旬のある日の朝。

「先生、S男がまた欠席だよ。」
「うん、風邪で今日も休むとお袋さんから電話があったぞ。」

教室がざわめく。

十月下旬から少しずつ欠席が目立ってきたS男に対して、私だけでなく生徒たちも、何かおかしいぞと思い始めたのである。

早速、家庭訪問することにした。不意の来訪に戸惑いの表情をみせた母親であったが、正直に最近のS男の様子を話してくれた。予想は当たった。登校拒否だったのである。しかし、両親には何に原因があるのかはわからないとのことであった。

この日から、私とS男の持久戦が始まった。毎日、毎日、

「おいS男、なんで学校へ来ないんだ。何か嫌なことでもあるのか。」
「黙っていてはわからんじゃないか。」

の繰り返しであった。

いよいよ文化祭が明日に迫った夜、再び家庭訪問。いつもの重苦しい沈黙が続いた後、なにげなく

「S男、文化祭でプラモデルをサークルの作品として出すだったよなあ。どうだ、作ってあるか。」

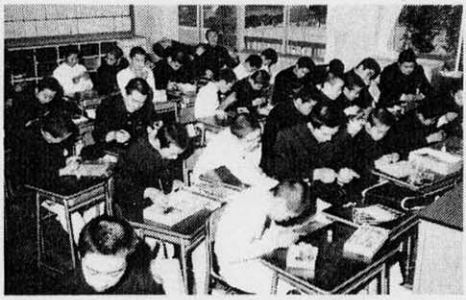
と聞くが早いか、今までずっと貝のように口を閉ざしていたS男が、わあっと泣きだした。

「何だ、プラモデルがどうかしたのか。」

泣きじゃくるばかりのS男であったが、やっと理由がわかった。S男が宝物のようにしていた数数のプラモデルを、十月下旬に母親がすべて処分してしまい、それに腹を立てたS男が報復手段として登校拒否に出たのだ。

母親がなぜこのような行為に出たかは、S男を見ていれば痛いほどよくわかる。しかし、今は私も両親もS男が学校へ行くようになってほしいということで意見が一致。S男にプラモデルを買い与えようということになった。

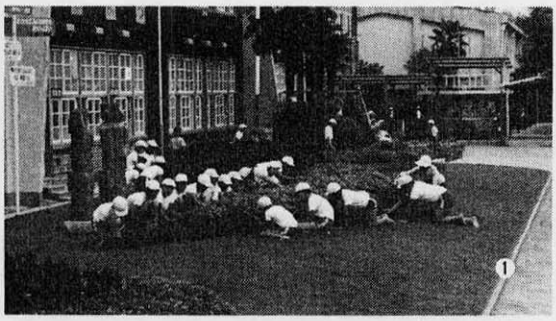
翌朝、喜々とした表情のS男は、完成させたプラモデルを大事そうに展示館へ運んだ。彼の後ろ姿を見て、ほっとすると同時に、これでよかったのかなと考えさせられる自分であった。



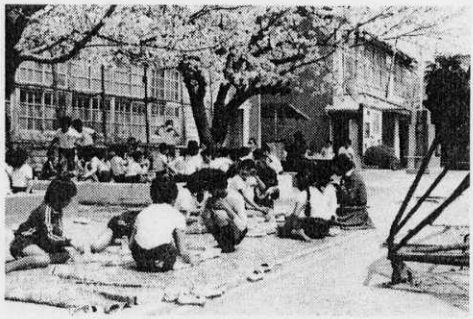
一年のあゆみ

▶南中、多年にわたる緑化推進活動の功績が認められて内閣総理大臣賞を受賞（五月二十九日）

4・1 ●新規採用教員51名辞令伝達式（3月27日から三日間、少年自然の家で新任教員の集い）
4・17 ●小豆坂小・新香山中開校
●常磐南小・山中小・六ツ美中・南中の4校、松下視聴覚教育研究助成校に選ばれる
5・5 ●現職教育委員会総会（上地小）
5・13 ●第11回岡崎子どもまつり（菅生川原）
5・29 ●第28回岡崎市中学校総合体育大会
6・12 ●南中、学校緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞を受賞
6・14 ●奥殿小・研究発表会
6・19 ●細川小、FBC春花壇大賞を受賞
6・26 ●矢作南小研究発表会
7・1 ●六ツ美中研究発表会
7・21 ●市制施行68周年記念式典で教職多年勤続者20名表彰
●岡崎市小学校球技大会開始
7・22 ●第37回岡崎市中学校市長杯総合体育大会開始
●第11回岡崎市民大学開講（せきれいホール）
(1) 7・22 神谷満雄氏「くらしと経済」
(2) 8・12 野口篤太郎氏「シルクロードを取材して」
(3) 8・19 内薗耕二氏「眠りの精」
(4) 8・26 上坂冬子氏「人生のドラマ」
(5) 9・2 中岡三益氏「中東の人と社会」
(6) 9・16 笹沢左保氏「明日はわが身」
7・26 ●ハンガリー少年少女合唱団演奏会（市民会館）
8・2 ●現職教育夏期実技講習会開始
8・ ●全国中学校選抜競技大会に陸上13名、水泳7種目、バレー男女、バスケット男子、ソフト出場
8・17 ●山中小男子・竜美丘小女子、全国小学校バレーボール大会で準優勝
8・21 ●城北中、全国中学校選抜ソフトボール大会で準優勝
8・23 ●竜海中男子、全国中学校選抜バレーボール大会で優勝
8・30 ●竜美丘小、県学校環境緑化コンクールで特選・知事賞
9・6 ●羽根小、全国学校給食優良校に選ばれる
9・9 ●第17回岡崎市中学校新人体育大会開始
9・21 ●福岡中研究発表会



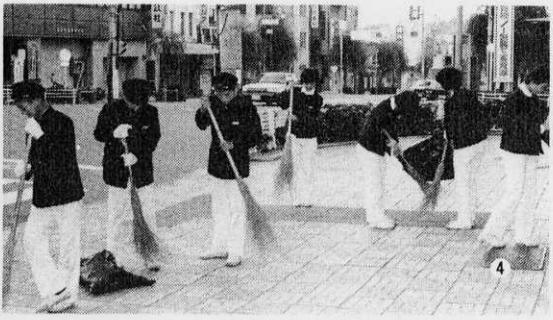
①学校と学区の一体化が見事に花開き、春秋連続FBC大賞を受賞した細川小（六月、十一月）
②ハンガリー少年少女合唱団、昨年のブルガリア少年少女合唱団に引き続いて来岡　天使の歌声は聴衆を魅了（七月二十六日）
③大久保慎一監督の率いる竜海中男子バレー部は、小粒ながら抜群のチームワークを発揮し、全国優勝の快挙（八月二十三日）
④開校以来、学区の早朝美化活動を続ける城北中ねずみグループ　岡崎市教育文化賞を受賞（十一月十日）
⑤アメリカ・ニューポートビーチ



▶全国学校給食優良校に選ばれた羽根小での花見給食（九月六日）

◀全日本健康優良学校優秀校となった愛宕小の豊かな心づくりをめざす音楽集会（十一月三日）

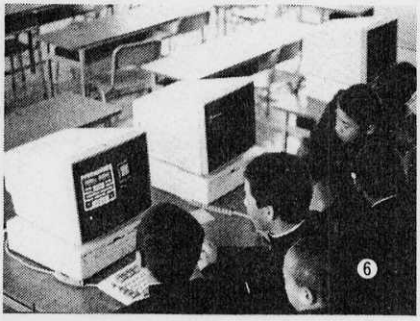
9・28	・常磐東小研究発表会
10・1	・岡崎市教育委員長矢田香子氏の後任に糟谷正孝氏就任
10・10	・市民体育祭（六名公園）、理科作品展（竜美丘小）、技術・家庭科作品展（竜美丘会館）
10・11	・美川中、ソニー理科教育優秀校に選ばれる
10・12	・アメリカ・ニューポートビーチ市へ第5回中学生海外親善使節団を派遣（生徒4・教師3）
10・16	・南中研究発表会（中間報告）
10・23	・山中小研究発表会
10・24	・六ツ美北部小、NHK全国学校音楽コンクールで県代表となる
10・28	・第27回岡崎市小学校陸上競技大会
10・30	・六名小、研究発表会（中間報告）
10・31	・城北中研究発表会（愛産研）
11・2	・第21回造形おかざきっ子展（菅生川原）
11・3	・愛宕小、全日本健康優良学校優秀賞を受賞
11・9	・矢作西小研究発表会
11・10	・第12回岡崎市教育文化賞に岸田達夫氏、後藤章氏、城北中ねずみグループ、岡崎フィルハーモニー管弦楽団、岡崎地方史研究会
11・16	・広幡小研究発表会（中間報告）
11・17	・岡崎市教育長に横井滋氏が再任され、教育委員天野一太氏の後任に深田三太夫氏が就任
11・20	・恵田小研究発表会 ・全国自作視聴覚教材コンクールで、ビデオ作品「公害を考える」が優秀賞
11・25	・細川小、FBC秋花壇県名誉大賞を受賞
11・27	・アメリカ・ニューポートビーチ市と姉妹提携
12・15	・市内全中学校にパソコン設置
12・25	・竜海中、県中学校長距離継走大会で優勝
1・20	・第11回冬季研修会（少年自然の家） ・第36回市民駅伝競争大会（六名公園）
2・23	・広幡小、東海三県学校図書館奨励賞部門優秀賞を受賞
2・24	・視聴覚ライブラリー設立三十周年記念映画フェスティバル（せきれいホール） ふるさとシリーズ第三集「点　みちのべの文化財」刊行
3・1	



市長と中根岡崎市長による姉妹提携調印（十一月二十七日）

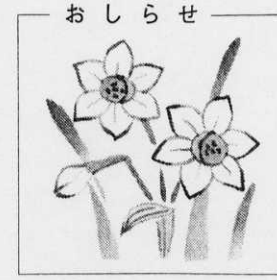
⑥高度情報化社会に対応すべく、全国に先駆けて全中学校にパソコン導入（十二月十五日）

⑦輝かしい実績を誇る岡崎視聴覚ライブラリー、設立三十周年記念フェスティバル（二月二十四日）



昭和59年度研究発表校の研究動向一覧表

発表月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料（研究物・講師・助言者）
6月12日	奥殿小学校	教育全般	気づき、考え、活発に活動する子の育成	「生き生きと活動する授業や児童活動」の展開についての研究 ・目標を明確に具体的に ・到達度をおさえた段階ごとの指導	研究物「気づき考え活発に活動する子の育成」 資　料「単元目標分析表」（第一次）「学習指導案」
6月19日	矢作南小学校	社会	魅せられ、はたらきかける子 自ら考え、問いかけ、深め合う社会科学習	児童が事象に魅せられ、夢中になって学習に励む、基本的な手だての工夫を地域教材の開発に求めた授業研究と実践	研究物「魅せられ、はたらきかける子」 資　料「社会科単元の構造化」 講　師　岡崎女子短大　石川勤先生
6月26日	六ツ美中学校	教育評価	わかる、できる、いきいきとした授業を求めて ―― 形成的評価をとり入れた実践 ――	完全習得学習の理論に基づき、生徒に学力保障と成長保障を与えるための形成的評価問題と、評価後の指導の手だてを研究してきた	研究物「わかる、できる、いきいきとした授業を求めて」 資　料「学習系統図」「学習目標分析表」 講　師　大阪大学　梶田叡一先生
9月21日	福岡中学校	全教科	意欲をもって学ぶ生徒の育成 ―― ひとり調べを生かした授業の実践 ――	授業の中にひとり調べを組みこんで組織し、生徒が自分なりに持った課題を、自分なりの構想で解決するための進め方の追究	研究物「意欲をもって学ぶ生徒の育成」 助言者　愛教大　霜田一敏先生 講　師　上越教育大　相川高雄先生
10月16日	南中学校	生徒指導	基本的生活態度の徹底をはかり、活力ある生徒の育成をめざす生徒指導 （中間）	率先垂範、師弟同行を合い言葉に登下校指導、清掃指導を手だてにして、けじめとやる気の育成をめざす実践	研究物「基本的生活態度の徹底をはかり、活力ある生徒の育成をめざす生徒指導」
10月23日	山中小学校	国語	たしかな表現のできる子の育成 ― 書くことを大切にして ―	毎時間の国語の授業に必ず書くことを位置づけた授業研究をし、社会科・理科にも関連づけて、確かな表現力を育成する研究・実践	研究物「たしかな表現のできる子の育成」 資　料　研究資料集　学習指導案 講　師　愛教大教授　甲斐睦朗先生
10月30日	六名小学校	道徳	道徳的実践力を育てる道徳の授業 ― 道徳的価値を主体的に自覚させる授業過程と指導法 ―（中間）	・「価値追究把握」「価値の自覚」の機能を重視した授業過程の研究 ・資料の活用類型による発問の研究 ・共感を深める教具の工夫	研究物「道徳的実践力を育てる道徳の授業」、指導案、分科会資料 助言者　柴田和一先生、松田茂男先生、鈴木松三先生
11月9日	矢作西小学校	国語・算数	すすんで 読み解く子を育てる	・好ましい読書習慣を育てる ・物語文の個性的な読みを育てる ・自分なりの筋道だった考え方を育てる	研究物 「すすんで読み解く子を育てる」 講師　教育大　甲斐睦朗先生 教育大　柴田録治先生
11月16日	広幡小学校	学習指導	授業 ―構造と展開と― 教材研究と指導過程 （中間）	学習指導の理論的実践的研究 ・構造は理論、展開は授業実践 ・児童が学習に喜びや満足感を持つような指導過程の追求	資料・「授業―構造と展開と―」 ・学習過程を重視した指導案集（低中高学年用） 講師　梅園小長　内田松夫先生
11月20日	恵田小学校	特別活動	子どもひとりひとりが生きる特別活動―学級会活動を核にして自らの問題を解決していく学級づくり	・教育計画に対応する子ども用の年間計画 ・ひとりひとりに応じた個人目標 ・役員のいない児童会組織	研究物「子どもひとりひとりが生きる特別活動」「恵田の子どもは今」 講師　梅園小長　内田松夫先生



「宮殿師」が県教育長賞

昭和五十九年度、愛知県自作視聴覚教材コンクールにおいて、市視聴覚ライブラリー自作委員会が制作した8ミリ映画、「宮殿師」（約十三分）が県教育長賞（最優秀賞）となり、去る二月十四日、県教育センターで表彰された。昨年の「木彫師」についで、二年連続の受賞となった。

この作品は、三河仏壇づくりのひとつの職種である「宮殿師」にスポットをあて、伝統工芸師の姿を描いたものである。制作担当は、近藤卓・磯貝勝（矢北小）後藤晶基（矢北中）の各教諭が中心となった。

なお、本市からはこのほかに自作ビデオ作品七点も応募し、全て入賞という好結果を得た。

▽優秀賞・「三河仏壇」・「家

〔寄贈刊行物・資料等〕

◆文集　おかざき　第22集
A5　一七九ページ　国語部

◆研究会報告　意欲をもって学ぶ生徒の育成　福岡中
B6　五八ページ

◆詩集　ぼくの命　福岡小
変形A5　一二六ページ

◆一人ひとりに自信と喜びをもたせる　常磐東小
B5　六八ページ

◆学習指導研究協議会（中間発表）記録　広幡小
B5　孔版印刷

◆私たちの読書　1月号
B5　孔版印刷　教務主任会

◆読書の記録
B5　孔版印刷　校務主任会

康」（社会科部とライブラリー共同）
・「ナイス・トゥ・ミート・ユー」（英語部）
・「梅雨時のチョウ」（三浦重光）
▽優良賞・「はっ車オーライ」（社会科部とライブラリー共同）
・「中小企業は今」（社会科部とライブラリー共同）
▽佳作・「いちご作り農家をたずねて」（社会科部とライブラリー共同）

■全国音楽教育論文で優秀賞に加藤明教諭（甲山中）

財団法人音楽鑑賞教育振興会主催の第十七回論文・作文募集において、加藤明教諭（甲山中）の随想「音楽は人間をつくる」が優秀賞を獲得。

■昭和五十九年度東海三県学校図書館コンクール

▽部門優秀賞（管理運営）
広幡小学校
▽地区奨励賞　福岡小学校

■昭和五十九年度愛知県読書感想文コンクール

▽県学校図書館研究会賞
山川大吾（六名小）
▽県学校図書館協会賞
浜村悦子（東海中）

■昭和五十九年度岡崎市読書感想文コンクール

▽市長賞　太田啓介（三島小）
山川大吾（六名小）
浜村悦子（東海中）
▽市議会議長賞
杉田浩司（生平小）
佐藤茶津子（連尺小）
山本英森（美川中）
▽市教育委員会賞
小学校　十五名
中学校　四名

■昭和六十年度岡教組役員

委員長	矢野　達雄（上地小）
副委員長	牧野　好博（東海中）
書記長	大井　正之（城北中）
書記次長	石原　雅充（竜海中）
組織部長	鳥居　正己（美川中）
情宣部長	菅沼　国雄（南中）
教文部長	中根　洋（葵中）
調査部長	福応　謙一（梅園小）
福対部長	神尾　光伸（甲山中）
青年部長	近藤　博之（福岡中）
婦人部長	大野　清子（岩津中）
会計委員	海藤　卓夫（矢北中）
会計監査	平野　有行（細川小）
〃	内堀　博之（美合小）

昭和59年度　岡崎市中学校陸上・水泳最高記録　○印は新記録

性	種目	氏名	校名	記録
男子	1年 100M	伊東　顕	岩津	12″3
	100M	生駒　禎宏	矢作	11″5
	200M	杉浦　康秀	城北	24″1
	400M	木村　毅	美川	○ 51″0
	800M	寺沢　隆志	南	○ 2′01″7
	1・2年 1500M	杉山　直史	南	4′24″6
	3000M	神谷　栄樹	矢作北	9′08″8
	110MH	宮地　克典	城北	15″7
	4×200MR	杉浦・永野 本多・木村	美川	1′37″1
	低4×100MR	成瀬・大沼 石川・松本	南	○ 47″8
	走高跳	岩堀　祐司	六ツ美	1 M80
	棒高跳	渡辺　達也	南	3 M20
	走幅跳	木村　毅	美川	○ 6 M61
	砲丸投	前島　浩二	矢作	15M09
	三種競技A	谷津　薫	南	2641点
女子	1年 100M	中村由貴子	甲山	13″0
	100M	谷山　和美	甲山	○ 12″3
	200M	近藤　直美	城北	27″2
	800M	杉浦由紀子	福岡	○ 2′20″1
	100MH	永田　直美	城北	15″5
	4×100MR	松下・武田 山本・谷山	甲山	○ 51″9
	低4×100MR	田坂・奥井 近藤・青木	六ツ美	53″3
	走高跳	鈴木　里香	岩津	△ 1 M61
	走幅跳	清水　貴世	福岡	○ 5 M58
	砲丸投	天野裕美子	竜海	11M63
	三種競技A	鈴木　里香	岩津	2576点

性	種目	氏名	校名	記録
男子	100自	岩附　宣人	矢作北	○ 56″87
	200自	岩附　宣人	矢作北	○ 2′07″17
	400自	岩口　裕	新香山	4′32″81
	100平	柴田　博	福岡	1′15″58
	200平	落合　祐次	矢作	2′41″18
	100背	野村　敬之	矢作	1′10″ 5
	200背	野村　敬之	矢作	○ 2′34″ 1
	100バタ	鈴木　歩	城北	○ 1′02″ 7
	200バタ	鈴木　歩	城北	○ 2′15″70
	200個	鈴木　歩	城北	2′28″ 5
	400混R	安田・三井 岩瀬・山本	甲山	4′40″61
	400 R	岩附・岩月 菅田・甲斐	矢作北	4′04″72
女子	100自	川口　信子	岩津	1′05″ 8
	200自	清水　美江	甲山	2′22″ 4
	400自	清水　美江	甲山	4′55″ 8
	100平	清水　美江	竜海	○ 1′21″53
	200平	井川　明美	竜海	○ 2′52″69
	100背	平岩　美幸	美川	1′19″ 1
	200背	浅井寿己礼	葵	2′47″ 4
	100バタ	三尾　早織	附属	1′11″ 1
	200バタ	稲垣里栄子	矢作北	○ 2′32″01
	200個	浅井寿己礼	葵	○ 2′40″ 2
	400混R	前田・井川 鷲野・久永	竜海	5′10″55
	400 R	石井・中沢 平野・落合	矢作	4′33″67

狂俳の碑

所在地―岡崎市西本郷町

旅の空　応えぬ雲を
　　よんで見る

西本郷町の和志取神社境内の南口に、子どもの背丈ほどの句碑が建っている。この句は、俳句にしては季語がない。五・七・五の、それぞれの頭にタ・コ・ヨという言葉を折り込んだ狂俳の句である。

狂俳というのは、『日本国語大辞典』によると、江戸時代初期の俳諧師松永貞徳に始まる冠付け雑俳の一つで、おどけやたわむれを内容とするとある。

昨年発行された『新編岡崎市史13、近世学芸篇』を見ると、当岡崎地方はなかなかこの狂俳の盛んなところであったようである。

さて、この句碑を建立したのは秋水吟社という、この辺の狂俳同好会で、句の作者は、岡崎地方で中心的な活躍をした渥美悠長という人である。

秋水吟社は、大正の初め、地元の小学校教師を指導者として、青年子女の文化活動を盛んにするために誕生した。今でも残る数少ない狂俳同好会の一つである。この秋水吟社は月一度の例会を開くほか、秋には広く県下から同好の士を集めて大会も開くという。

●カット　矢作中　山田泉美

この本を

＊生きる　藤原　てい
　読売新聞社　1000

＊昔話の世界「鬼むかし」　五来　重
　角川書店　1300

＊方舟さくら丸　安部　公房
　新潮社　1600

＊人を育てる　素野福次郎
　講談社　980

＊ニューヨークの空は澄んで　板谷　翠
　春秋社　1300

＊教師よ！　若林　繁太
　協同出版　1200

『深い「愛情」のもとに，教師・生徒相互の「信頼」を根強く求め続ける「忍耐力」があれば，どんなに荒れ狂った子どもであっても，必ず指導効果は期待できると私は信じている。』

これが著者の最終結論である。豊富な事例を混じえて語りかける著者の姿にうたれる。また，学ぶべき実践がいくつもある。

オアシス

思い出多い学び舎をあとに、卒業生が巣立っていく。九年間の義務教育を終え、新しい道を歩き始めようとしている。

進学、就職と、進む道は違っても、若い彼らには無限の可能性がある。それぞれの目標に向かって一歩ずつ着実に歩いていってくれるだろう。ステップ・バイ・ステップ。ファイト！

昭和六十年代の幕開け。「国鉄の次は教育」と喧伝されている。教育が社会問題となった五十年代を受けて六十年代の教育は、何が求められるのか。本号の特集は、教育問題に深い知見を持ち、義務教育を外からみることのできる学識者の方に玉稿をいただいた。読者とともに謙虚に学びたいと思う。

「新たな道」へと卒業を前に生徒たちの進路が決まってくる。この時期、子どもや親と同様、教師も胃の痛くなる思いで過ごす日々が続く。

卒業後、元気な姿で訪ねて来てくれることが何よりの薬である。

一歩一歩力強く新しい道を歩んでいってほしい。

「ステンショ」と呼ばれていたころの国鉄岡崎駅三代目駅長一ノ瀬嘉吉の顕彰碑が、龍海院の境内にある。ふるさとシリーズ第三集「点　みちのべの文化財」にも紹介されたが、氏についての資料は乏しい。お孫さんが高槻市に健在であることが電話帳から確認された。「ふるさとがもう一つあったんですね。」